

2022年08月09日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【米国の金融政策】

金融政策に関して、一般論を言うならば、金利は、極めてロジカルだ。

それは、金利には「政策金利」があるからだ。

この「政策金利」は、マーケット(市場)による需給ではなく、人間が判断して決定する。

それも中央銀行とか、財務省とか、その時の政府といった、ごく一部の、一握りの、人間の判断によって決められる。

しかしながら、金利は世の中の人たちに深く関係しているから、あんまり急激に変動させるのは好ましくない、という事情がある。

例えば、ちょっと景気が悪くなりました。

だから、一度に「政策金利」を3%引き下げます。

そうしたら、景気が急回復したので、それではまた「政策金利」を一度に3%引き上げます。

といったわけにはいかない。

だから、今の米国のように、景気が良くなりインフレが進行している時は「政策金利」を引き上げるのだが、いっぺんに2%も3%も上げるのではなくて、0.25%(ないしは、0.50%とか、0.75%)上げる。

そして、様子を見る。

足りなければ、また、0.25%(ないしは、0.50%とか、0.75%)上げる。

そんな風に小出しにして引き上げることになる。

+++++

金利の動きで大事なものは方向を誤らないことだ。

ただ、金利の方向性はちゃんと勉強すれば、誰にでもわかる。

それから、「政策金利」の動きは同じ方向に少なくとも3回は動く。

これは、絶対ではないのだが、一部の人間が様子を見ながら小出しに上げたり下げたりするのだから、普通は足りなめになるからだ。

逆に「政策金利」が半年ごとに、上がったたり下がったりしたら、マーケットから信認されなくなってしまう。

そんなことするくらいだったら、金利を動かさないで様子を見るべきだと、マーケットの参加者は考えるからだ。

+++++

直近の米国経済指標を眺めると、目先のインフレ率の上昇傾向に陰りが見える指標も少しある。

それをもって、先々の米国の金融政策を見越して、「利上げ」が縮小するのではないか、とか、「利上げが終わったら、その先は利下げ」といった期待感を煽るコメントも散見される。

そういった「我田引水」の意見に惑わされてはいけない。

上述した通りの理由で、現時点で、米国の利上げは、足りていないのだ。

だから、次に行う米国の金融政策は、政策金利の引き上げに決まっている。

当面のところは、その「利上げの幅」がどれくらいになるのか、を考えれば良いだけで、その先（利下げ）を考える必要は全く無い。

現時点でのFRBの最大のターゲット（目標）は、過熱的なインフレ率を収めて、自分達（FRB）にとって心地よいインフレ率に導くこと。

+++++
+++++

(2022年08月09日東京時間15:10記述)